

⑥ 境港市の取組

※令和5年度の中・四国小学校体育研究大会（鳥取大会）に向けて県の視点にそって研究を進める。

1 本年度の努力事項

- (1) 全県あがての研究の視点にせまる授業づくりに努め、授業研究会を行って研究を深める。
- (2) 子どもたちの体力を向上させるための運動や取り組みの充実を図る。

2 本年度の主な活動内容

- (1) 5月 体育部会総会 ○令和元年度庶務・会計報告 ○令和2年度役員選出
○県小体研理事会の報告 ○スキー教室日程調整
- (2) 7月 小教研市内統一研修日
○県の研究の情報伝達及び授業の単元構想【体づくり：；多様な動き、体の動きを高める】
- (3) 12月 市小教研体育部会 ○授業研究会事前研 ○授業研究会と研究協議
○第6学年 体づくり運動 授業者 小草 慶治 教諭（中浜小学校）
単元名「みんなでどンドン体力アップ」【体づくり運動（体の動きを高める運動）】
- (4) 2月予定 体育部総会 ○スキー教室の反省，スキー用具の点検（修理・整備）
○本年度事業・研究推進の反省やまとめ，来年度の研究推進について

1 はじめに

(1) 運動の持つ特性

体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。また、体づくり運動は、手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするとともに、低中学年での多様な動きをつくる運動（遊び）を踏まえ、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて質を高めることができる運動である。そして、運動の必要性や行い方を理解し、自己の心と体の状態を捉え、仲間と話し合いながら課題を明確にし、その解決の仕方を工夫し合うとともに、考えたことを仲間に伝えたり、仲間の考えや取組を認めたりすることができる運動である。

(2) 児童の実態

事前のアンケート結果より、本学級の児童は体を動かすことが好きな児童が多い。一方で毎日のように運動をする児童とそうでない児童の個人差が見られる。休み時間も決まった相手と決まった遊びや運動をしている児童が多い。今年度は、新体力テストを実施していないが体の柔軟性に課題を持っている児童が多く見られ、またそのことを課題に感じ、柔軟性を高めたいと考えている児童も多い。

2学期に行った40mハードル走の学習では、自己記録の向上を目指してポイントを意識しながら学習することができた。意図的なチームを編成し学び合いの学習を取り入れて活動を行ったことで、少しずつ仲間同士のアドバイスができる児童も増えた。

2. 実践について

(1) 単元の目標

【知識及び技能】

体の動きを高める運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ、直接的に体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

体の動きを高める運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする

(2) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- ・本校の児童は、新体力テストの結果や器械運動等の授業を進めていく中で、自分の体を支える等の力が低いと感じられる。力を入れたり抜いたりするなど、運動をするときの力の使い方に加え、力を入れる運動の機会を増やすため、力強い動きを高めるための運動を取り入れる。
- ・各運動の動きのポイントを指導しながら行い、正しく運動できるようにする。また、学習カードや掲示資料において図示を活用し、視覚的にとらえやすくする。
- ・運動の内容については、ゲーム的要素を取り入れるなど、児童が意欲を持って続けることができるように工夫する。
- ・動きが複雑になると、児童の意欲を損なうことも考えられるので、児童がすぐに理解できるような簡単な内容にする。

- ・体ほぐしの運動（動物歩き等）を毎時間の最初にグループで行い、心をリラックスさせ、友達と一緒に体の動きを高める運動に取り組みやすい雰囲気をつくるようにする。
- ・課題を解決する活動の中で、学び合いを活性化させるために動きのコツや工夫等を掲示したり、授業の中で共通理解を図るために友達の動きを紹介したりする。
- ・体育館壁面やホワイトボードに、運動例を写真や絵で掲示する。
- ・情意面の変容や学習の振り返りを共有しやすくするために、全体での振り返りの時間を設ける。また毎時間ネームプレートホワイトボードに貼ることで、情意面の様子や立場を明確にし、その理由を全体に伝えたり、単元を通して変容がわかるように本時までの物を掲示したりしておく。

（６）単元の流れ及び評価の計画

	1	2	3	4	5（本時）
主なねらい	単元の流れを知る	いろいろな体力を高める運動を知る	いろいろな体力を高める運動を知る	自分の課題を見つけ高める	自分の課題を見つけ高める
核となる学習活動		体の柔らかさを高める運動	たくさん動きを高める運動	体の柔らかさを高める運動 たくさん動きを高める運動	体の柔らかさを高める運動 たくさん動きを高める運動
学習活動	●オリエンテーション ・学習の進め方 ・準備片付けの指導 ●体ほぐしの運動	・体ほぐしの運動・学習のねらいや約束 活動① いろいろな体力を高める運動にチャレンジしよう ○フレキシブルコーナー（体の柔らかさを高めよう） ○スキルフルコーナー（たくさん動きを高めよう） ○フレキシブルコーナー（体の柔らかさを高めよう） 活動② 自分の課題に合った運動を選びチャレンジしよう ○体の柔らかさを高める運動 ○たくさん動きを高める運動 ○体の柔らかさを高める運動 ○たくさん動きを高める運動 用具の片付け・学習の振り返り・次時の学習について			
評価の計画	知	②	②	③	③
	思			①	①
	学	①	①	①	②

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
具体的な評価規準	① 運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりしている。 ② 体ほぐしの運動で、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わったりしている。 ③ 体の動きを高める運動で、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をしている。	① 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。

3. 指導の実際

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で新体力テストの実施ができず、昨年度の結果を『わたしたちの体育』の新体力テストの欄に個人の結果を記入する所から授業を行なった。グラフの形からも児童の多くは、柔軟性や力強い動きに課題を持つと同時に克服したい、向上させたいと大変意欲的に授業に取り組むことができた。導入では、「体ほぐしの運動」をグループ毎に行い、心と体の両面で運動の準備を行うようにした。単元の前半は、例示されている運動をグループ毎に行い、いろいろな動きに取り組む楽しさを味わいながら、基本的な動きが身に付くようにした。また、運動の楽しさや体の動きがより向上できるにはどうすれば良いのかを人数・方向・回数などの条件を変えることで、楽しさや達成感を味わえるようにした。それぞれの運動についてのコツや新しい方法などが見つかった場合には、クラス全体で模範演技や付箋等で共通理解を図りながら、グループや子ども自身でいろいろな工夫等を見付けていくことができた。

単元の後半では、授業の前半をグループ、後半を個人でそれぞれの運動に取り組む活動を仕組んだ。自分たちで運動の仕方を考えたり、できるようになるコツや同じ課題を克服するためのアドバイスを伝え合ったりすることでよい動きや運動を高めることにつながり、さらに運動の楽しさを味わうことができた。境港市では、児童の情意面の変容や感想などを次の授業に活かすことを大切にしてきた。本單元では、『わたしたちの体育』の「学習のあしあと」を使うことはもちろん、個々の情意面の変容や理由を毎時間見取るために、全体での振り返りの時間を確保した。「運動の楽しさ（縦軸）」と「動き・技能の高まり（横軸）」のグラフを掲示し児童にネームプレートを貼らせ視覚化した。そこで選んだ理由を全体で共有し、次の授業で取り組んだり改善したりしていくことを全体で確認することができた。



4. 成果と課題

【成果】

- 『わたしたちの体育』の「学習のあしあと」を学習カードに活用したり、全体での振り返りの時間を設定したりすることで、児童の思っていることや困っていることがより明確になり、次の学習に向けて、全体で共有することにつなげることができた。
- 普段、児童がしない動きや課題とする動きを単元を通して継続して取り組むことで、いろいろな動きに触れながら動きを向上させることを実感できる児童が増えた。
- 動きや運動を高めていく過程で、児童が楽しみながら工夫してゲームや得点要素を取り入れたことで単元を通して意欲的に活動に取り組むことができた。

【課題】

- 動きや運動の数が多く、児童に対する見取りが難しいので教師側が、計画的に見通しを持ちながら見取りの方法をさらに考えていくことが必要であると感じた。
- 低学年からどんどん遊びの中での多様な動きを経験させたり、『わたしたちの体育』の例示されているものを体育館等に掲示したりして、高学年までに積み上げていく必要があると感じたので、校内での計画を見直し、改善していく。

